

から、「玉造」と墨書された須恵器杯が出土した。「玉造」は、「和名類聚抄」によれば磐城郡の郷名にあり、中島川の本流である仁井田川の別称の一つに玉造川の呼称があることや、遺跡の西側に隣接する地域に玉山の地名がみえることから、この付近の郷名を示す墨書とも考えられる。「判祀」郷の地の比定と併せ、さらに遺跡の性格の究明も含め、今後の課題とした。

9 関係文献

福島県教育委員会・財福島県文化センター『常磐自動車道遺跡調査報告6』(一九九六年)

(大越道正・平川 南)

福島県いわき市の荒田目条里遺跡は古代磐城郡の郡家跡に比定される根岸遺跡やその附属寺院と考えられる夏井廃寺、延喜式内社の大國魂神社に近接して所在する遺跡である。一九九三年の調査によって、古代の河川跡から大量の祭祀遺物とともに木簡三八点(うち墨痕のあるもの三三点)が出土した。

これについては本誌第一七号に報告がなされているが、今回木簡を中心とした調査略報が刊行された。内容としては宛先の異なる二点の郡符木簡、種類の付札とみられる木簡などが注目される。

『荒田目条里遺跡木簡調査略報

木簡が語る古代のいわき』の刊行

いわき市教育委員会編集・発行 一九九六年三月刊
本文三四頁、A4判、頒価一〇〇〇円、送料一冊二五〇円
問い合わせ 財いわき市教育文化事業団

〒九七七〇 いわき市中央台県立いわき公園内
TEL 〇二四六一九一〇三九一